

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース
(保健体育) / 藤田 雅文

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

日本体育・スポーツ経営学会の研究推進委員会が企画する、科研費申請に向けたプロジェクト研究の一員として参加する。
具体的なテーマ及び計画は、現時点では未定である。

2. 点検・評価

「小学校の体育授業におけるタブレットの活用の効果に関する研究」をテーマとして、基盤研究Cに研究代表者として申請した(10月)。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

学会等において、体育・スポーツ科学を専攻する学部の教員にパンフレットを手渡し、本学大学院のPRに努める。
講習会等において、受講生にパンフレットを配布し、本学大学院のPRに努める。
中四国地区の大学スポーツ大会のプログラムに広告を掲載し、本学大学院のPRに努める。

2. 点検・評価

日本体育学会(8月)、日本スポーツ教育学会(11月)、日本体育・スポーツ経営学会(3月)において、知人の大学教員に本学大学院のPRをし、指導学生への受験の勧めを依頼した。また、中四国学生ハンドボール選手権の大会プログラムに本学大学院のPR広告を私費で掲載した(8月)。徳島県内3カ所で開催されたスポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成講習会で本学大学院のPRを行った(11・12・1月)。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

1. 体育実技授業での個別指導によって、学生の技能を高めるとともに、教員採用試験のための模擬授業・面接に協力し、実技特別講座で直前指導を行なう。
2. 体育施設の整備に努め、男女ハンドボール部の顧問としての責務を果たす。
3. 学生の興味関心に添ったテーマを設定し、卒論・修論指導を行なう。
4. 教員採用率の向上に向けて、担当科目に関連する採用試験問題に触れ、理解させる。
5. 学生の進路、悩み等の相談に随時応じる

2. 点検・評価

大学院前期の「学校体育経営研究」では、具体的な事例の資料配布と現職教員の事例発表を行って知識・理解を深めた。学生による授業の総合評価は5.0点であった。後期の「学校体育経営演習」では、パソコン(Excel)を使って、体力テスト、保健体育科の成績処理、授業研究のデータ処理の技法を獲得させた。学部前期(1年)の「初等中等教科教育実践基礎演習」と後期(2年)の「初等中等教科教育実践Ⅱ」では、各種の運動教材のマイクロティーティングと模擬授業を課して教育実践力を育成した。通年(1年)の「健康・スポーツ科学Ⅰ」では、小学校教員に必要な実技能力のグレードテストを課し、器械運動の技の連続図説を掲示した学習資料の配布と個別指導によって技能の向上を図った。通年(2年)の「初等体育Ⅰ」では、器械運動の授業記録のレポートを課して指導案作成の能力を高め、ミニ模擬授業を交えて指導法の知識・理解を深めた。前後期(1・2年)「運動方法実習Ⅰ・Ⅱ」では、スキルテストと演技発表会を課して技能の向上を図った。後期(3年)の「体育経営管理学Ⅰ・Ⅱ」では、体育・スポーツ振興の全体構造を理解させ、学生の関心があるスポーツ団体・イベントの調べ学習とプレゼンテーションを課して研究能力の育成を図った。

ハンドボール部顧問として、高知県立大学体育館で開催された四国インカレで監督を務め(7/4)、鳴門アミノバリューホールで開催された中四国学生ハンドボール選手権《秋季リーグ戦》の大会副委員長(事務局長)を務めた(8/27～31)。

雑草が生い茂って草原状態になっていた陸上競技場のメンテナンス作業を日常的に行った(5～11月)。

大学院生6名と学部生2名の修論・卒論指導を行った。現職を除く修士3名の1名は正規採用、2名は講師採用された。

II-2. 研究

1. 目標・計画

継続している総合型地域スポーツクラブと学校運動部活動の経営、体育科教育に関する研究成果を学会発表し、学会誌や大学紀要等に投稿する。

2. 点検・評価

日本スポーツ教育学会第32回大会(中京大学, 11月)において「児童の疾走能力を高める10分間トレーニングに関する研究」「小学校低学年の児童の身体能力を高めるボール投げゲーム」「中学生のハンドボールのゲームにおける攻撃パターンに関する研究」の3件の研究発表(共同)を行い、日本体育・スポーツ経営学会第36回大会(京都教育大学, 3月)において「徳島県下の放課後子ども教室における運動プログラムの実施状況に関する研究」の研究発表(共同)を行った。

日本体育学会体育経営管理分科会編集の「体育経営管理論集」(審査有)に「高等学校硬式野球部の競技成績の規定要因に関する研究」の単著論文を投稿した(9/20)。

四国体育・スポーツ学研究への投稿論文の査読委員を務めた(2月)。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 部及びコース選出の各種委員会の委員として、本学の運営に貢献する。
2. 教員採用試験の合格率アップに向けて、就職支援事業に協力する。
3. 大学院の受験生確保のため、学会や講習会などの機会を通じて広報活動を行なう。
4. 教育支援アドバイザーに登録し、依頼された業務を遂行する。

2. 点検・評価

セクシュアル・ハラスメント等に係る相談員、課外活動連絡会議委員、センター入試、大学院・学部入試の試験監督・問題作成・採点・面接の職務を遂行した。

就職支援行事の教採実技ガイダンス(体育)において、延べ36名に器械運動の指導を行い(7/11, 14)、教採実技ガイダンス(集団)[模擬集団討論(1回目)]の面接官を務めた(12/8)。

日本体育学会(8月)、日本スポーツ教育学会(11月)、日本体育・スポーツ経営学会(3月)において、知人の大学教員に本学大学院のPRをし、指導学生への受験の勧めを依頼した。また、中四国学生ハンドボール選手権の大会プログラムに本学大学院のPR広告を私費で掲載した(8月)。徳島県内3カ所で開催されたスポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成講習会で本学大学院のPRを行った(11・12・1月)。

教育支援講師・アドバイザー等派遣事業の講師として、第58回徳島県小学校体育指導者講習会に参加し、器械運動の授業について指導助言を行った(7/27)。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

1. 附属学校からの依頼に応じて、研究会等で指導助言を行なう。
2. 教育実習の研究授業に参加して、附属教員とともに学生の指導に当たる。
3. 長年務めているスポーツ団体等の役員の業務を遂行し、地域社会に貢献する。
4. 本学の国際交流基金の協力要請に応じる。

2. 点検・評価

附属小学校合同研究会に参加し、研究協議を行った(5/30)。

第56回附属中学校教育研究発表会に参加し、マット運動の授業を参観し、研究協議を行った(6/1)。

附属中学校・小学校での教育実習の授業を参観し、実習生に対して指導助言を行った(9/20, 27)。

附属小学校での用具を操作する運動の研究授業を参観し、研究協議を行った(11/29)。

第59回小学校教育研究会の研究協力者として授業を参観し、体育分科会で研究協議を行った(2/9)。

附属小学校第2回合同研究会(反省会)に参加し、研究協議を行った(3/6)。

日本体育学会体育経営管理分科会副会長、徳島県教育委員会「子どもの体力・運動能力向上対策委員会」座長、徳島県体育協会「スポーツ科学委員会」委員、徳島市体育振興公社評議員など、多種の社会的業務を遂行した。

国際交流基金に継続して協力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)